

みちよくれ

社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

魅力発信書

中津総合ケアセンターいずみの園
めぐみ保育園
グレース保育園
犀川のぞみ保育園



目次

理事長より皆様へ	1	地域包括ケアシステム① 24時間在宅生活を支える	14
母なる教会と共に	2	地域包括ケアシステム② 住まいの提供	15
法人沿革	3	障がいサービス事業／子育て支援事業	16
法人組織表	4	共生事業	17
法人の事業概要一覧	4	法人保育所紹介① めぐみ保育園	18
職員が選ぶ ハード面／ベスト10	5	法人保育所紹介② グレース保育園	19
職員が選ぶ ソフト面／ベスト10	7	法人保育所紹介③ 犀川のぞみ保育園	20
いずみの園の経営方針	8	関連教会紹介	21
サービス力	9	キリスト教関係行事	21
職員力	10	職員の福利厚生	22
医療・リハビリテーション力	11	各種データ	23
経営力	12	10年後を目指して	24
地域力	13	編集作業を終えて	24



理事長より皆様へ



このたび、九州キリスト教社会福祉事業団より「魅力発信書」を発行するはこびとなりました。私もいずみの園の魅力とは一体何だろうと考えてみました。その結論は、地域を愛してやまず、多少の犠牲もいとわない職員の皆さんの使命感と頑張りにあると思えました。それを育ててきたのは中津市民、地域の皆さんです。いずみの園の魅力とは一言で言って「職員力」と「地域力」だと思います。

2010年（平成22年）、中津総合ケアセンターいずみの園ではホームヘルパーの24時間サービスを開始しました。夜の10時でも、深夜の3時でもご希望があればお宅にお伺いしてサービスを提供します。深夜のヘルパー派遣は、夜が不安と言われるご利用に対するヘルパーさんの「思いやり」と「使命感」の現れだと思います。この事業は、国の先駆的モデル事業となりました。

特別養護老人ホームは、全国社会福祉法人経営者協議会の2013年度特養機能強化事業の3モデル施設の一つに選ばれました。今後の特養の在り方としての研究報告書が厚生労働省に提出されました。いずみの園のユニットケア、ターミナルケア、リハビリ強化機能が認められたものです。

2013年4月から、障がい者の就労継続支援事業を始めましたが、2015年には蠍瀬（かきぜ）地区に「福祉の里センター サマリア館」を開設します。これは障がいのある児・者、高齢者、子ども、お母さんが楽しみながら活動できる、全国でも注目される共生型センターとなります。

いずみの園のシンボルマーク『命のいずみ』は、地域にお仕える職員の心と姿（モットー）を表しています。いずみの園の魅力「職員力」、「地域力」の原点はこのモットーにあるのかもしれませんが。

おわりに、当法人の礎となった3保育園及び法人の精神的基盤である日本基督教団中津教会についても、限られたスペースですが紹介しております。

この「魅力発信書」は、職員自ら法人の魅力は何かを探し作成しました。どうぞご覧下さい。

理事長 富永健司

いずみの園 基本方針 等

基本理念



青いうずは地域の中の命のいずみを表し、
三つの点はいずみから湧き出る
信仰（緑）、希望（黄）、愛（赤）をもって
地域にお仕えるいずみの園を象徴しています。

サービスコンセプト

神と人ともに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする。

1. アメニティ (Amenity)

快適主義：快適なサービス、快適な環境、笑顔のサービス提供をおこなう。

2. ヒューマニティ (Humanity)

人間主義：心と体の自由を尊重、一人ひとりの個性を大切にサービスを提供をおこなう。

3. ローカリティ (Locality)

地域主義：地域と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を果たす。

上記内容を次の通り実施し、確実にする。

※顧客満足及び地域社会の福祉向上のために、この品質方針を要求事項の適合と品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を図る。

※品質方針を達成するための品質目標を設定し、定期的に見直しをする。

施設長 富永健司

2001年11月1日

「母なる教会と共に」—九州キリスト教社会福祉事業団の歩み—



創設当時の多田先生

前理事長 多田 一三先生

日本基督教社会福祉学会誌【基督教社会福祉学研究】 第29号（1996年）より転載（抜粋）

日本基督教団九州教区は、1974年5月の教区総会において社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団の設立を承認した。それは教区内にある教会付設の保育園が、宣教を目的として設立されていることを重視し、社会のいかなる事態に直面しても揺がされることなく、教会の宣教の業を担うキリスト教保育を存続させるためにはどのような方法があるかを3年にわたって教区宣教部委員会が検討した結果、教区に提出された答申に基づくものであった。具体的には、社会福祉法人の許可を受けたくても、必要な条件を満たすことが出来ず、経営において苦勞している九州各地の教会付設の小規模保育園をこの社会福祉法人に包括し、それぞれを支えることが目的であった。幸いなことに、教区が重点施策の開拓伝道によって大分市内に開設した大分東教会付設のめぐみ保育園が、すでに社会福祉法人の認可を受けていたので、この法人を基にその働きを展開することになった。1974年10月、中津教会が取り組んでいた保育園建設を支援、公的補助金による認可保育園「グレース保育園」を完成させた。

翌1975年11月、教会付設の無認可幼稚園であった犀川教会の「愛児園」が加入し、認可保育園となり、犀川のぞみ保育園がスタートした。その後、教会の改築に併せ、国庫補助により新園舎を完成させた。それまで社会福祉法人の名称は、社会福祉法人めぐみ保育園であったが、3保育園の包括によって不適当となり、1976年1月、社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団に改称した。これを機に、九州教区の全ての教会と信徒の総意により、熱き祈りに支えられ、教区の宣教の業を社会福祉の場で本格的に推進することになった。1978年4月、中津市内に特別養護老人ホームいずみの園を公的補助金によって完成、法人は保育園だけでなく老人福祉施設を設置経営する総合的、複合的

な規模になった。1988年1月、いずみの園に大分県第一号のデイサービスセンターを併設、大分県の在宅福祉のパイオニアとしての役割を果たした。さらに、1995年9月、いずみの園敷地に隣接して、ケアハウス・ケアマンション聖愛ホームを国庫補助と教区内外の諸教会の献金を受け、新築完成させた。これは九州教区が、教区をはじめ全国の諸教会の支援を受け、地元の津屋崎教会の協力によって40年の長きにわたって運営してきたクリスチャンのための老人ホームであったが、諸般の事情により津屋崎での今迄の事業を閉鎖することになった。この事業を事業団が教区の要請を受け、中津の地で再発足させたものである。4階建ての瀟洒な建物には各地から移ってこられた教職やクリスチャンの同居者が、一般の人々と和やかに暮らしておられる。

いずみの園であるが、当初、教区は、事業団の目的を教区内の保育園を包括することにし、高齢者福祉に取り組む意図は無かった。しかし、高齢社会の到来と共に、全国的に高齢者福祉のニーズが急激に高まり、教区においても介護を要する高齢者のためのキリスト教による特別養護老人ホームの建設が求められた。教区には、既に教職や信徒のためのユニークなキリスト教老人ホームの聖愛ホームがあり、さらに、認可施設の老人ホームを建設するには莫大な自己資金を必要とすること等、教区もその必要性は認めても、誰もが不可能として具体的な話には至らなかった。そうこうする内に、中津市から特別養護老人ホームを緊急に整備するため、事業団に建設の要請があった。教区総会に諮り、承認され、中津教会と協力し現地委員会をつくり、建設計画の実現に取り組んだ。補助金問題等紆余曲折があったが、教区内外の多くの教会や信徒の多額の尊い献金が捧げられ、公的補助金を受け、1978年4月、特別養護

老人ホーム(定員50名)を開設した。

事業団のこれまでの歩みの背後には、我々の願いを良しとされた主の奇(くす)しき導きと、教区内外の教会や事業団の働きに賛同する多くの人々の熱き祈りと温かい支援があったことを忘れることができない。問題はこれからである。事業団の生みの親は九州教区であり、母なる教会の信仰と支えによって育まれてきた。施設は公的補助金によって建設され、公の措置費や補助金によって運営されているといわれるが、事業団は教区内外の諸教会と信徒や多くの支援者の祈りと献金と奉仕無くして生まれなかったし、これからも存在し得ない。我国の社会福祉は、今や大きな転換期を迎えた。しかし、事業団は世々限りなく生きておられる主に仕え、いつの世にあっても、教区と母なる教会の宣教の働きを社会福祉の現場で担い、実践する信仰共同体でありつづけることを課題としている。



創設当時のいずみの園（1978年）

法人沿革

創設 - 保育事業を中心に

1968年	S43年	4月	日本基督教団大分東教会により小規模無認可保育所「めぐみ保育園」開設
1971年	S46年	8月	「社会福祉法人めぐみ保育園」法人認可
		10月	認可保育所「めぐみ保育園」(定員40名)として事業開始 (1972年4月、60名へ変更)
1974年	S49年	10月	認可保育所「グレース保育園」(定員90名)新築開設
1975年	S50年	11月	認可保育所「犀川のぞみ保育園」(定員60名)開設
1976年	S51年	1月	「社会福祉法人めぐみ保育園」の名称を「社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団」に変更

社会のニーズに応じて - 老人福祉分野へ

1978年	S53年	4月	「特別養護老人ホームいずみの園」(定員50名)新築開設
1981年	S56年	8月	「特別養護老人ホームいずみの園」老人短期入所事業(定員10名)開始
1988年	S63年	1月	「いずみの園デイサービスセンター」新築、大分県第一号施設として事業開始
1990年	H2年	9月	「いずみの園」ホームヘルプ事業開始
		12月	「いずみの園在宅介護支援センター」事業開始
1992年	H4年	4月	「特別養護老人ホームいずみの園」定員を100名に変更、うち認知症老人専用棟20名として事業開始
		7月	「大分県地域介護実習・普及センターいずみの園」事業開始
1995年	H7年	9月	ケアハウス「ケアマンション聖愛ホーム」(定員50名)新築開設
1997年	H9年	10月	「いずみの園」老人訪問看護事業開始

介護保険スタート - 多機能化

2000年	H12年	4月	介護保険法の施行、指定介護保険事業者として介護保険事業開始
			「めぐみ保育園」定員を90名に変更
2002年	H14年	7月	認知症老人グループホーム「ベテルハウス」新築開設
		8月	診療所「クリニックいずみ」、通所リハ「リハビリセンターいずみ」新築開設
		10月	「障害者生活支援センターエマオ」(中津市委託)事業開始
2003年	H15年	4月	「グレース保育園」新築移転、同時に定員を120名に変更
		6月	旧グレース保育園跡地にて「デイサービスセンターかきぜ」事業開始

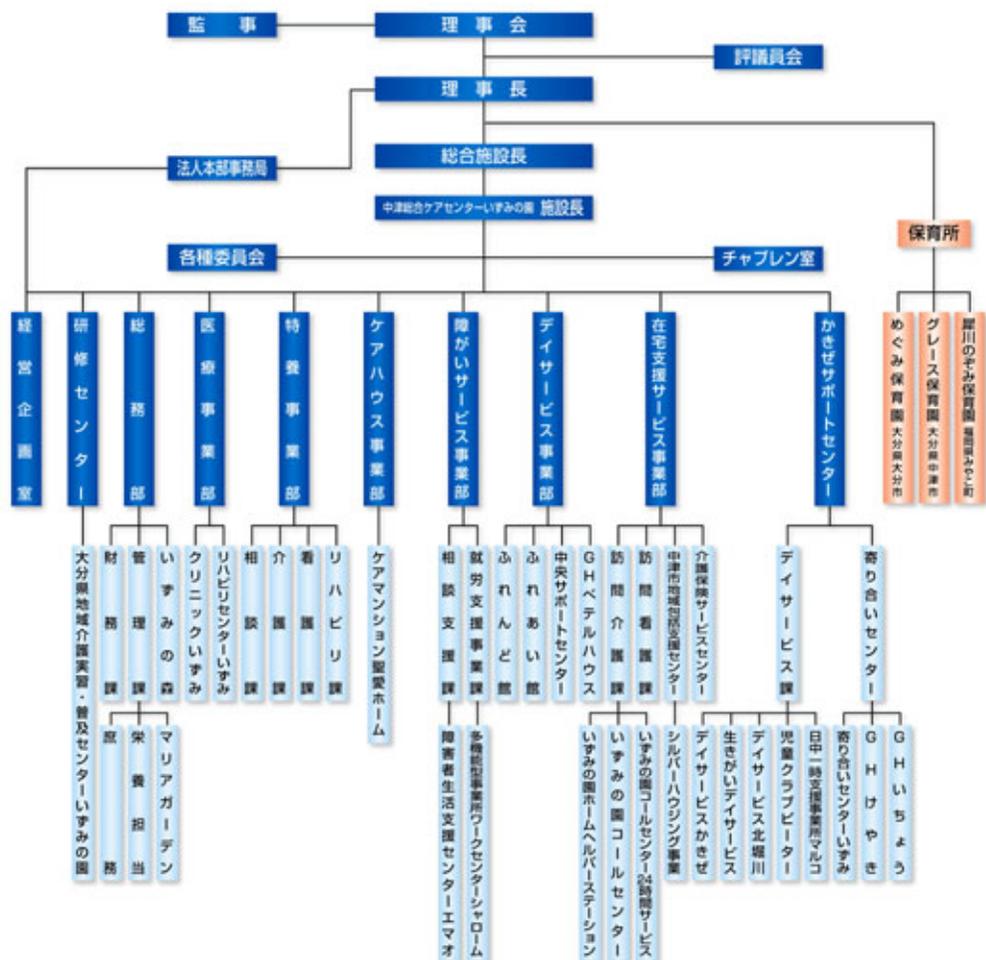
2005年	H17年	4月	「いずみの園ショートステイ」7室増床(2007年8月、10床増床計27床)
2006年	H18年	2月	有料老人ホーム「シニアレジデンスいずみの森」(定員14名)新築開設
2007年	H19年	1月	「犀川のぞみ保育園」火災復旧工事完了
		3月	特養の一部(36床)を増改築しユニット型として開始
		4月	かきぜサポートセンターにて「いずみの園児童クラブピーター」(中津市委託)事業開始
		8月	特養の一部を増改築しユニット型(4床)増床

さらなる展開へ

- 要援護者(高齢者、障がい者、児童)へ包括サービス

2008年	H20年	4月	かきぜサポートセンター内に「いずみの園児童クラブピーター」新設
		4月	夜間対応型訪問介護事業「いずみの園コールセンター」開始
2010年	H22年	7月	小規模多機能型居宅介護「寄り合いセンターいずみ」(定員25名)、認知症対応型共同生活介護「かきぜグループホーム」(定員18名)新築開設
		4月	「日中一時支援事業所マルコ」(中津市委託)開始
2011年	H23年	4月	「犀川のぞみ保育園」定員を40名に変更
2012年	H24年	4月	通所介護「デイサービスセンター北堀川」(定員15名)事業開始
		4月	事業所内保育施設「マリアガーデン」(定員20名)新築開設
		5月	定期巡回・随時対応型訪問介護看護「いずみの園コールセンター 24時間サービス」事業開始
		6月	通所介護「いずみの園中央サポートセンター」(定員25名)事業開始
2013年	H25年	4月	「中津総合ケアセンターいずみの園」へ名称変更
		4月	「多機能型事業所ワークセンターシャローム」(障がい者就労継続支援事業定員A型10名、B型10名)事業開始
		10月	ユニットリーダー研修実地研修施設に認定(全国個室ユニット型施設推進協議会)
2014年	H26年	4月	「めぐみ保育園」増築工事完了 定員を120名に変更
		4月	「特別養護老人ホームいずみの園」(多床室)を定員60名へ変更 「特別養護老人ホームいずみの園ヨハネ館」(ユニット個室)定員40名として新設

法人組織表



職員数現員 (2014年4月1日現在)

いずみの園	347人	グレース保育園	27人
めぐみ保育園	28人	犀川のぞみ保育園	14人
法人全体	416人		

法人の事業概要一覧

介護保険サービス事業

サービス種別	サービス名	いずみの園での事業所	
介護サービス(介護予防を含む)	訪問介護	いずみの園ホームヘルプステーション	
	訪問看護	いずみの園訪問看護ステーション	
	居宅サービス	通所介護	いずみの園デイサービスセンターふれんど館 いずみの園デイサービスセンターふれあい館 いずみの園中央サポートセンター いずみの園デイサービスセンターかきぜ いずみの園デイサービスセンター北堀川
		通所リハビリテーション	リハビリセンターいずみ
		短期入所生活介護	いずみの園ショートステイサービス
		居宅介護支援	いずみの園介護保険サービスセンター
		施設サービス	特別養護老人ホームいずみの園
	地域密着型サービス	夜間対応型訪問介護	いずみの園コールセンター
		定期巡回・随時対応型訪問介護看護	いずみの園コールセンター24時間サービス
		小規模多機能型居宅介護	寄り合いセンターいずみ
認知症対応型共同生活介護		いずみの園グループホーム(ペテルハウス) かきぜグループホーム(けやき・いちょう)	
介護予防支援		介護予防支援 中津市地域包括支援センターいずみの園	

介護保険以外の事業

サービス名	いずみの園での事業所
軽費老人ホーム・ケアハウス	ケアマンション聖愛ホーム
有料老人ホーム(住宅型)	シニアレジデンスいずみの森
医療機関	クリニックいずみ
地域介護実習・普及センター	大分県地域介護実習・普及センターいずみの園
障がい福祉サービス居宅介護	
障がい福祉サービス重度訪問介護	いずみの園ホームヘルプステーション
障がい福祉サービス行動援護	
障がい福祉サービス生活介護	デイサービスセンターかきぜ
障がい福祉サービス相談支援	障害者生活支援センターエマオ
放課後児童クラブ	いずみの園児童クラブビーター
生きがい活動支援通所事業	いずみの園デイサービスセンター北堀川
日中一時支援事業	日中一時支援事業所マルコ
障がい者就労継続支援	多機能型事業所ワークセンターシャローム
事業所内保育施設	マリアガーデン

児童福祉(保育所)事業

保育所(3ヶ所)	めぐみ保育園	(大分市)
	グレース保育園	(中津市)
	犀川のぞみ保育園	(福岡県みやこ町)

職員が選ぶハード面／ベスト10

いずみの園

※順位は編集委員の投票により決定しました。

1位 マリアガーデン

当施設はキリスト教保育を理念とし、異年齢児が家族のように育ちあうアットホームな、職員のための事業所内保育施設です。

一人ひとりを大切にする
きめ細やかなサービスを行います。



2位 デイサービスセンターかきせ

(放課後) 児童クラブ、日中一時支援事業(障がいのある児童)も併設しており、高齢者と児童との交流やふれあいなどを行っています。



3位 ワークセンターシャローム

障がいのある方の就労の場として就労継続支援事業のA型・B型10名ずつの定員です。

メンテナンス班、
クリーニング班、
農作業班があります。

運営方針として

- ① 自立意欲・自立性を大切に。
- ② 互いの違いを認め、個性を伸ばす。
- ③ 夢や向上心に応える仕事をつくる。



4位 デイサービスセンター北堀川

民家を改修し、近所の家に遊びに来たような家庭的な雰囲気で過ごすことができます。

市の委託事業として
自立の方を対象とした
生きがいデイサービス
事業もあわせ実施。



5位 レストランベエルシバ

見学者の方々や職員への軽食も用意し、団らんの時間をもっています。

ホール係をシャロームの
事業利用者が対応しています(A型)。



6位 特養 ヨハネ館

自宅から馴染みの家具等を持ち込むことができ、スムーズな施設生活への住み替えが可能となります。

しつらえを工夫した「生活の場」となるよう家庭的な環境となっています。



木造平屋建て全室個室です。

職員が選ぶハード面／ベスト10

いずみの園

※順位は編集委員の投票により決定しました。

7位 研修センター

福祉や介護技術を学ぶことはもちろん、福祉の入り口となるボランティアの受け入れ、市民向けの介護職員養成研修など人材養成を行います。

リクエスト講座、出張介護教室も行っています。



8位 寄り合いセンター

城下町蛸瀬の風景に溶け込み、白と黒の和風を基調としたシックな建物です。

第1回中津市景観賞受賞
2012年4月



グループホーム、小規模多機能型居宅介護があるこの建物は周囲に圧迫感を与えず、近隣住宅とも調和を保つ等地域との良好な景観形成になっています。



9位 チャペル (礼拝室)

ケアハウス聖愛ホーム1階にチャペル(礼拝室)があります。40数名が利用できる静かな落ち着いたスペースで、礼拝が行われます。

入居者の方でお亡くなりになった際に、希望される方があればこのチャペルで告別の式をしています。



10位 中央サポートセンター

機器を使った機能訓練を中心に、趣味的な活動で楽しみながら作業活動を行ったり、それぞれの日常生活課題に応じた支援を行っています。
新しいタイプのデイサービスです。

男性にも楽しめる活動を準備しており、登録者の半数以上は男性です。

その他特徴のあるもの

いずみ館ライブラリー

職員向けに福祉の本をはじめ指導テキストや介護技術のビデオやDVDを各種揃えています。また、キリスト教関連の書籍も多く取り揃えています。

なお、地域の方々に貸し出しもしています。



クリニックいずみ

当法人が設置する診療所として2002年に開業しました。デジタルレントゲン、内視鏡、超音波(エコー)検査機器などの設備を備え、一般外来の受付もしています。特養入所者など当園事業利用者の診察だけでなく、職員の健康管理の役割もあり、いずみの園全体の医療の要としての役割を担っています。



職員が選ぶソフト面／ベスト10 **いずみの園**

※順位は編集委員の投票により決定しました。

1位 いずみの園フェスタ

毎年10月に行われる地域への感謝祭です。いずみの園創立20周年感謝祭として始まりました。

毎年の来場者は、ボランティア、ご利用者、地域の方など合わせて3,000人を超す人出で賑わいます。



2位 シャトルバス(無料)

いずみの園から市内商業施設、JR中津駅、病院等を循環する無料のシャトルバスです。ご利用者だけでなく、面会や見学の際にも利用されています。

週に3日、1日4回運行しています。



4位 ホームページニュース

当園ホームページには「法人事業活動」や「お知らせ」などがあり、中でも「いずみの園ニュース」のページでは、各事業所の催しなど、新鮮でホットな情報を掲載しています。



アドレス：<http://www.izuminosono.jp/>

5位 職員研修

全職員を対象に年間9回を目標に、外部講師による園内研修を行っています。



福祉に関する研修だけでなく、人権や接遇、マナー等様々なテーマで行っています。



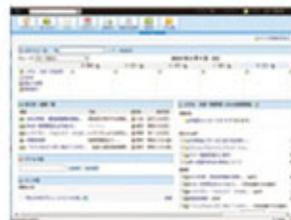
3位 子ども参観日

小中高校の夏休みなどを利用して、いずみの園で働く職員の子もたちが自分のお父さん、お母さんの職場や働く姿を見学する取組です。

年1回開催しており、リフトを使用した入浴体験や車いすを使用した乗車体験・操作体験なども行っています。

7位 サイボウズ

職員間の情報共有のツールとしてグループウェア「サイボウズ」を導入。メールや掲示板などで情報の「共有化」「見える化」を図っています。



8位 いずみ会

職員親睦団体を組織しています。新人歓迎会、忘年会などの開催や親睦旅行の費用助成など行っています。



6位 研修センター各講座

大分県介護実習普及センターの委託事業で無料の各種介護講座を行っています。その他にも、介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級講座)も行っています。



9位 マナー教室

「マナー向上委員会」が中心となり、2004年から職員のマナー向上を目指して、中津市在住の実践礼道小笠原流礼法の福成菱清先生を招き、「小笠原流礼法マナー教室」を行っています。(写真はいずみの園フェスタでの小笠原古流茶会の様子)



10位 売店「えがおや」

特別養護老人ホーム本館にある売店「えがおや」が、業者委託で設置されています。菓子、パン、ジュース、日用品、洋服などを取り扱っており、ご利用者やご家族、職員が利用しています。

営業時間 月～金/10:30～15:00 土/11:00～13:00



いずみの園の経営方針

施設改革3カ年戦略（1997年度～1999年度）

2000年の介護保険導入を見据え、取り組むべき課題を明示。利用者はおお客様であり、民間企業の参入も見越して『選ばれる施設』へと変化していかなければならない。

具体的な課題は、①「施設の多機能化」、②「地域密着・連携の強化」、③「サービス業としてのマナー」、④「専門的技術・プロのサービス」、⑤「業務のパソコン利用」、⑥「ブランドイメージのアピール」、⑦「組織力の開発」の各項目で、経営陣はもちろん、第一線の職員に至るまで自覚を持った取組を行う。

1. 職員の意識改革
2. アメニティサービスからユニットケアへ
3. 多機能化、医療部門の整備
4. サービスの質の確保
5. 経営体質への変換

いずみの園新5か年プラン（2012年度～2016年度）

2012年4月、国の第5期介護保険事業計画がスタートする。団塊の世代が後期高齢者に入る2025年までに、中学校区を単位に「住まい、予防、介護、医療、生活支援サービス」を包括的継続的に提供する「地域包括ケアシステム」を完成させるという。

一方、政府は財政基盤確保のため「社会保障と税の一体的改革」の議論を本格的に進めている。年金、医療、介護の社会保障制度の転換期を迎え、また社会福祉法人の見直しが行われる中で、いずみの園は社会福祉法人としての公益性、公共性、先駆性を堅持し、これからの10年を展望しつつ「いずみの園新5か年プラン」を策定する。

- 1 「中津総合ケアセンターいずみの園」構想
国がすすめる地域包括ケアシステムを推進し、高齢者、障がいのある人、児童、母子、貧困など地域の福祉ニーズ全般に対応できる総合ケアセンターを目指す。

- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・24時間対応サービスの充実
- ・事業の多角化、総合化を図る
- ・行政・地域との連携の強化
- ・地域コミュニティの拠点化

- 2 「障がい事業」の開発
・多機能型一就労継続支援事業A型・B型（ワークセンター）
・グループホーム

- 3 共生型「かきせサポートセンター」事業の推進
・高齢者・障がい事業、児童クラブ
・地域交流スペース、障がい事業所(分場)
・日中一時支援事業

- 4 新規事業の開発
・中央サポートセンター開設
・デイサービスセンター北堀川開設
・その他サポートセンターの調査、研究

- 5 事業団組織・機構改革・法人本部機能の強化
・3保育園の連絡協議会
・いずみの園の機構改革
・各事業部門の自立的経営
・いずみの園新人事考課制度の試行
・中間管理職の育成

- 6 サービスの質の確保
・科学的介護の推進
・サービスコンセプトの推進
①アメニティ
（快適主義—快適なサービス、マナー）
②ヒューマニティ
（人間主義—人としての尊厳性を守る）
③ローカリティ
（地域主義—地域密着型事業）
・ホスピタリティ
「もてなしの心」—良きサマリア人（聖書）
・感動を呼ぶサービス、スピリチュアルケア
（心に触れるケア）

- 7 ワーク・ライフ・バランス（WLB）
・働き甲斐のある職場づくり
・事業所内保育施設「マリアガーデン」の設置
・リフレッシュ休暇（5連休）、年休消化の推進



（法人本部・事務所）

サービス力

1 ケアの質の確保

ケアの質の確保は介護保険施設では重要なテーマです。

- 介護老人福祉施設
(定員ユニット個室40名、従来型60名)
- 短期入所生活介護
(ショートステイ：定員27名)

特養事業部は、相談課、介護課、看護課、リハビリ課で構成され、科学的介護力（介護職の意義を知り、医療職と連携できる力）、介護の対応幅の拡大（利用者の生命維持）、専門性の向上（自立支援型介護、在宅復帰を視野に入れる）に邁進しています。

現在、地域包括ケアシステムの中で本人の価値観を尊重し、うるおい、笑顔のある暮らしを毎日作り出せるケア（HOL：ハビネスオブラيف）を行っています。

その人らしく平穏に最期を迎えられる場所として、ご利用者はもちろんのこと社会にとっても有益な生活の場作りを目指しています。



特養事業部職員

以上の実現のために看護師、OT、PT、ST、歯科衛生士の専門職などの医療関係職員も充実しています。

2 在宅支援のシステム

施設介護、在宅介護は車でいう両輪です。24時間365日の在宅支援の取組を行っています。



在宅支援サービス事業部職員

在宅支援サービス事業部は訪問系と相談系の4つの課で構成、在宅の相談窓口として地域住民に最も身近な存在です。

- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 夜間対応型訪問介護
- ヘルパーステーション
- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援事業所
- 地域包括支援センター

訪問介護と訪問看護は医療と介護の連携のもと、住み慣れた地域で可能な限り、安全に安心した暮らしが出来るように24時間365日の訪問サービスを提供しています。

介護保険センターと地域包括支援センターでは、要介護者や要支援者が在宅で尊厳を持ってその人らしく過ごせるように、自立支援に基づいたケアプランの作成や一般高齢者全般の総合相談を行っています。

3 デイサービス

- デイサービスセンターふれんど館
(軽・重介護対応：定員35名)
- デイサービスセンターふれあい館
(認知症対応：定員15名)
- 中央サポートセンター
(機能訓練・自由選択：定員25名)

デイサービス事業部は次の3つの事業課とペテルハウス（認知症グループホーム）で構成しています。

ふれんど館は、1988年に大分県第1号として始まりました。現在は定員35名で毎日営業（年末年始は除く）により介護度の高い方を含めたサービス提供を行っています。



デイサービス事業部職員

ふれあい館は、認知症の方を対象としており、ふれんど館と共に希望者には夕食の提供を行い、自立支援・家族介護軽減に努めています。

中央サポートセンターは2012年6月、軽介護者の在宅生活での自立を目的として開設、自主性と機能訓練に重点を置いたサービスを提供しています。

職員力

1 人材育成

「いずみの園」の委員会活動の1つとして「研修委員会」があります。主な活動として、園内研修の開催及び新企画として専門職員研修を行っています。

園内研修の内容は、

職員の倫理、権利擁護（高齢者虐待・身体拘束禁止等）、リスクマネジメント、感染症予防、マナー研修、職員の健康管理などです。

また、研修委員会では、時代に即応したテーマを提供できるように心がけています。



園内研修の様子

年度によって回数は若干変わることもあり、実績として年に7回から10回開催しています。研修会の会場は広く、200名程度の収容能力があります。

2 中間管理職講座

2012年度に策定された「いずみの園新5か年プラン」(P8)のうち、「5.事業团组织・機構改革・法人本部機能の強化」の中に「中間管理職の育成」が挙げられました。

これを受け中間管理職の人材育成のため、2013年5月から「みんなで学ぶ中間管理職講座 / I 課長篇」、同年7月から「役に立つ中間管理職講座 / II 主任篇」をそれぞれ10月までを前期として「I 課長篇」を10回、「II 主任篇」を7回開催し、11月以降「I 課長篇」と「II 主任篇」を合同開催で後期講座として2014年3月までに10回開催しました。



講座の様子

参加職員の感想

この講座を受講し、中間管理職の概念から始まり、各種管理・分析、行政のしくみや歴史、地域の著名人による講義など多種多様な構成となっており、管理職に求められる役割と能力を習得するために、とても貴重な時間と資料を頂いたと改めて感じました。

トピックス

いずみの園見学ツアー

いずみの園には本部の他に7つの拠点があり、職員でも行ったことのない拠点や事業所があります。

このため「いずみの園見学ツアー」を企画し、2013年11月より2014年1月末まで毎週1回、2時間程度をかけて、全11回実施、総計66名の職員が参加しました。(なお、中津教会にも伺いました。)



参加職員の感想

見学ツアーに参加し、同じ「いずみの園」でありながら、初めて訪れる場所が殆どでした。はざかしながら各部署での説明を聞いて「そうなんだあ。すごい」と感じる事が多かったです。働く場所は皆それぞれ違っても、同じ「いずみの園」の仲間は大勢おり、それぞれの場所でそれぞれに頑張っているんだなと思いました。

有資格者数

いずみの園職員全体	347
医師	1
介護支援専門員	47
社会福祉士	16
介護福祉士	113
介護職員基礎研修	2
ヘルパー1級	7
ヘルパー2級	168

(2014.4)

正看護師	19
准看護師	18
理学療法士	3
作業療法士	5
言語聴覚士	1
歯科衛生士	1
精神保健福祉士	5
管理栄養士	3
栄養士	3
調理師	2

医療・リハビリテーションカ

特別養護老人ホーム機能の充実

2012年度厚生労働省「老健事業」として、全国社会福祉法人経営者協議会が委託を受けた「介護老人福祉施設の機能強化の方向性に関する実証的研究」の報告書が2013年3月に厚生労働省に提出されました。この報告書は、介護老人福祉施設（特養）が進むべき方向性と介護保険制度のなかで評価する仕組みを研究するため、全国2,000の特養へアンケートによる実態調査と、全国3施設への実地でのヒヤリング調査を行ったものです。

このヒヤリング調査の施設3ヶ所の内の1つとして「いずみの園」が選ばれました。

先進的取組事例として

- ①特別養護老人ホームへのリハビリ専門職の配置
- ②介護現場におけるリハビリ専門職と介護職による利用者の状態維持・改善の取組
- ③現場での挑戦を可能にする組織づくり（理念・方針の明確化からケアの充実）

の3点について報告書にまとめられました。

■介護現場におけるリハビリ専門職と介護職により 利用者の状態維持、改善の取組

日々の関わりにQOL（生活の質）を高める研究に加え、尊厳を尊重した生活の実現と先端ケアの実践をケア・看護スタッフ協同で行っています。その一環として、併設している診療所専任医師の指導のもと、2009年より施設では珍しい経管栄養（鼻腔栄養や胃瘻）から経口摂取の再開を行って来ました。



内視鏡嚥下検査の様子

薬剤の使用を減少し自然な排便をすすめる研究や、看護師主導で死の質（QOD）に対する取組も行い、対外報告や成果も得ています。現在は介護事故に対するリスク対策研究も進み、高い次元のケアの実現と、生活全てにおいて安全・安心を提供し続けられる仕組みを作っています。



リハビリ専門職員

生活動作改善（IADL）に作業療法士（2人）、経管栄養などの摂食・嚥下障害に対する言語聴覚士（1人）、肺炎予防等に歯科衛生士（1人）も常勤で配置し、利用者の重度化に対して成果の出せる体制作りを図っています。また、ショートステイでもそのノウハウが発揮され、予防から重度化まで対応できる施設は全国的にも希少です。

■リハビリ専門職員配置について

介護保険施行後、ご利用者は徐々に重度化し、入所を申し込まれる方々の疾病も多様化する中、対応力のある施設が求められています。そのため、高齢者の施設では数少ないのですが理学療法士（1人）の配置を行い、従来のケアに科学的視点を加え、フィジカルへの専門性を導入しています。

医療

■クリニック設置

「いずみの園」敷地内に「クリニックいずみ」を設置しており、一般外来の他に、隣接する特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホームの入居者へ、迅速に医療サービスを提供できる体制となっています。

また、医師は日本医師会認定産業医でもあり、いずみの園職員全員の定期健康診断も行っています。



職員健康診断



医師による回診

■医師による特養回診

特養では、「クリニックいずみ」を開設（2002年）してからの利用者の年間延べ入院日数が減少しています。開設前は、年間入院者延べ人数が1,000人を超えていましたが、開設後は、年間入院者延べ人数は600人を割っています。

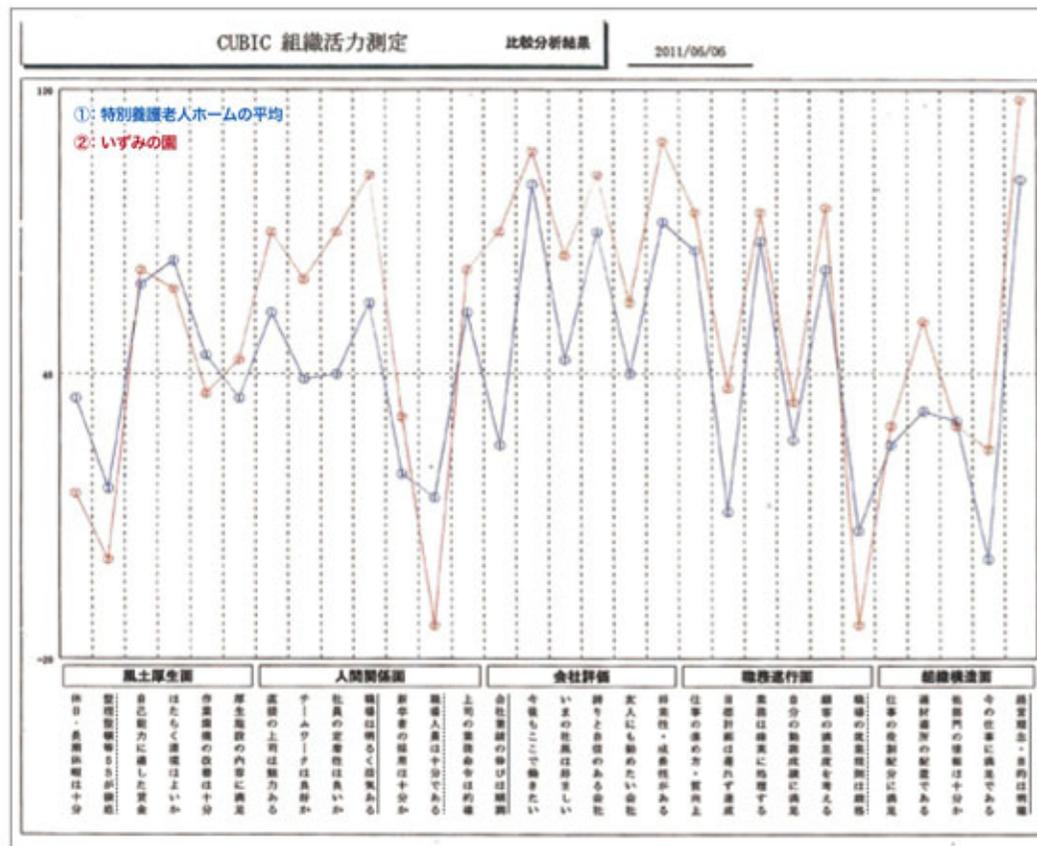
医療と介護が連携し、早期発見・予防が可能となり、利用者の重度化が進む中で、ご利用者・ご家族の安心に存在意義を発揮しています。

経営力

1 理念・コンセプトの浸透

経営理念は、組織を運営するに当たり重要な要素です。

2011年6月に行ったコンサルタント社による主任以上の研修では、「経営理念・目的は明確」の項目において、非常に高い結果となり、理念・コンセプトの浸透が図られています。



比較分析結果

強み

- ① 職場は明るく活気がある
- ② 会社業績の伸びは順調
- ③ 経営理念・目的は明確

弱み

- ① 整理整頓等5Sが徹底
- ② 職員人員は十分である
- ③ 職場の就業規則は厳格

2 経営戦略

2013年度、経営力強化に向け、税理士による経営計画などについての財務勉強会、弁護士によるリスクマネジメント勉強会などを、主任以上を対象に実施しました。

今後も適時開催していきます。



税理士による勉強会

3 財務体質 (過去3カ年決算)

収入のうち、81.5%は高齢者福祉事業によるもの、3.5%は障がい者事業によるもの、15%は保育所によるものです。高齢者福祉事業は財務的には当法人の屋台骨を支えています。

単位：千円

貸借対照表	2010年度	2011年度	2012年度
流動資産	841,225	897,539	1,054,160
基本資産	1,911,977	1,840,513	1,797,698
その他の固定資産	1,633,697	1,679,594	1,700,742
資産の部合計	4,386,900	4,417,647	4,552,601
流動負債	500,714	581,569	721,844
固定負債	1,553,355	1,490,124	1,524,347
負債の部合計	2,054,070	2,071,694	2,246,191
基本金	348,516	349,016	349,741
国庫補助金等特別積立金	801,857	772,338	766,158
その他の積立金	184,134	191,763	199,665
次期繰越活動収支差額	998,321	1,032,835	990,843
(うち当期活動収支差額)	48,538	42,143	-34,090
純資産の部合計	2,332,829	2,345,953	2,306,409
負債及び純資産の部合計	4,386,900	4,417,647	4,552,601

事業活動計算書	2010年度	2011年度	2012年度
事業活動収支の部			
事業活動収入	1,665,988	1,762,581	1,741,972
事業活動支出	1,612,580	1,712,122	1,772,871
事業活動収支差額	53,408	50,458	-30,899
事業活動外収支の部			
事業活動外収入	87,339	66,543	49,297
事業活動外支出	92,317	74,832	54,142
事業活動外収支差額	-4,977	-8,289	-4,844
経常収支差額	48,431	42,169	-35,744
特別収支の部			
特別収入	84,555	12,990	39,466
特別支出	84,447	13,016	37,812
特別収支差額	107	-26	1,653
当期活動収支差額	48,538	42,143	-34,090
繰越活動収支差額の部			
前期繰越活動収支差額	970,590	998,321	1,032,835
当期末繰越活動収支差額	1,019,129	1,040,464	998,745
基本金取崩額	0	0	0
基本金増額	0	0	0
その他の積立金取崩額	2,692	7,771	10,625
その他の積立金増額	23,500	15,400	18,527
次期繰越活動収支差額	998,321	1,032,835	990,843

地域力

1 ボランティア

「いずみの園」では研修センターの各種介護講座を通じボランティアの養成を行っています。



車椅子清掃の様子



年に1度行われるボランティア交流会

「いずみの園」は多くのボランティアに支えられており、2013年には述べ2,179人(実人数1,107人)の方々にボランティア活動をして頂きました。

2 災害援助

2011年3月11日の東日本大震災の発生後、3月19日に被災地へ支援物資を送りました。



支援物資発送

当園において備蓄していた250人3日分の食料の他、お米や野菜、紙おむつなどもトラックで発送しました。

大分合同新聞 2011年(平成23年)3月20日 日曜日 朝刊

2012年7月の2度にわたる豪雨により、中津市でも甚大な被害があり、いずみの園の職員も被災施設でのあと片づけの応援に参加しました。

中津市耶馬溪町の特養「やすらぎ荘」(中津市社協経営)と一般家庭へ、当園職員延べ41名が復旧支援を行いました。



豪雨復旧支援

3 地域交流

「いずみの園」では「いずみの園フェスタ」の他、夏には上ノ原地区と合同での慰霊盆踊りを行っています。



地区合同の慰霊盆踊り



いずみの園フェスタ



蛸瀬地区防犯パトロール

「かきざサポートセンター」では毎月地区の防犯パトロールへの参加、毎年近隣の蛸瀬川の清掃、年末には地区の方と合同で餅つきを行い、地域の方等と交流を図っています。

4 各経済団体への参加



「中津・桜ともみじの会」の植樹



中津商工会議所の「一斉清掃活動」への参加

地域の各経済団体へ参加しています。

- ・中津商工会議所
- ・中津経済クラブ
- ・中津青年会議所
- ・大分県中小企業家同友会 など

地域包括ケアシステム① 24時間 在宅生活を支える

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

コールセンター 24時間サービス

「いずみの園」では2010年4月から夜間対応型訪問介護（24時間対応）を開始しました。これは要介護者1～5のご利用者の夜間・深夜帯の介護ニーズが高く、開始から半年過ぎには約100名の方々にご利用いただきました。

ついで、2012年5月新規地域密着型サービスの「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」がスタート。これは2011年度のモデル事業（厚生労働省より「24時間定期巡回随時対応サービスモデル事業」として当園指定）を経て開始したものです。



訪問の一場面



コールセンターオペレーションの様子

このサービスは、短時間・複数回のケア訪問と24時間見守り体制を行い、緊急時には随時に対応するものです。訪問看護ステーションと連携をとり（連携型）、ご利用者の“住み慣れたわが家で最後まで暮らしたい”をご家族や地域の皆さんと共に支援するものです。

2014年3月現在、登録者数45名です。一人ひとりの生活スタイルを大切に、地域包括ケアの専門職として良質のサービスを提供していきます。



ペンダント型
コール機（子機）



ケアコール機
（通報機・親機）



テレビ電話型
通報機

地域包括ケアシステムとは

介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」のサービスが一体的に受けられる支援体制のことです。

小規模多機能型居宅介護

寄り合いセンターいずみ

地域密着型サービスとして、住み慣れた地域（自宅）で住み続けられるように、『通って、泊まって、家に来てくれる』サービスを同じ職員・場所で行うことができる事業です。



「寄り合いセンターいずみ」全景

在宅介護の可能性を拡めることが期待でき、地域包括ケアの中で核となる事業のひとつです。



食堂兼ホール

朝7時からのお迎えや19時からの送りなどご利用者の方の生活スタイルに合わせ、入浴のみの短時間利用から急な宿泊など柔軟に対応します。

地域包括ケアシステム② 住まいの提供

戸建有料老人ホーム

シニアレジデンス いずみの森

自然に囲まれ、四季を感じながら生活をおくることが出来ます。



「シニアレジデンスいずみの森」

全国でも珍しい“戸建て”ならではの自由でプライバシーを守りながらも、管理棟には24時間職員が配置されています。いつも見守られている安心感を提供します。

自分の生活スタイルを維持しながら、住み続けられる住まいとなっています。



リビング

軽費老人ホーム

ケアマンション 聖愛ホーム

定員50名の軽費老人ホーム・ケアハウスです。一人部屋46室の他、夫婦で入居できる部屋も2室あり、車椅子になっても生活できるよう全館バリアフリーとなっています。



「ケアマンション聖愛ホーム」全景

吹き抜けの広く明るい食堂があり、専任のシェフが料理を作ります。また、建物横に畑があり、入居者の方が育てた野菜を用いた料理も作られます。



食堂

クラブ活動は入居者が主体となって参加でき、四季折々の行事も行っています。

認知症対応型共同生活介護

グループホーム ベテルハウス

「ベテルハウス」は1ユニット（定員9名）を対象に、ゆったりとしたホールと、個室には収納スペースやトイレを完備した平屋建ての事業所です。隣には法人経営のクリニックやレストランがあります。



グループホームベテルハウス

天気の良い日にはご利用者と散歩をしたり、レストランでおやつを食べたり、家庭的な雰囲気豊かに生きることをモットーにサービス提供を行っています。

かきぜグループホーム〈いちょう／けやき〉

事業所内は中庭を囲み、四季折々の花を楽しみながら2ユニット（定員18名）の方々可以自由に行き来できる構造で、地域の方もお餅つきなどの交流行事を行っています。

認知症モデル事業

2013年10月から半年間、厚生労働省のモデル事業である「認知症施策総合推進事業」を「地域包括支援センターいずみの園」が委託を受けて実施しました。

専任の認知症地域支援推進員を配置し、医療と介護と地域における連携の強化に努めています。



実施内容

多職種連携のための事例検討会（「見える事例検討会」）
認知症カフェの開催・認知症地域支援マップの作成
認知症ケアパスの作成と普及・徘徊模擬訓練 など

障がいサービス事業／子育て支援事業

「障害者生活支援センターエマオ」

中津市から委託を受けた障害者等相談支援委託事業として、身体・知的・精神障がい者や難病患者、そのご家族など、あらゆる障がいに関する相談のお手伝いをします。その方の思いを大切にしながら、日々の生活を安心して送ることができるように支援しています。

中津市や地域の支援者と共に、障がいに関する問題や課題を一緒に考え、地域のネットワークづくりに取り組んでいます。



「障害者生活支援センターエマオ」



障がいサービス事業部職員

「放課後児童クラブピーター」

「デイサービスかきぜ」の隣にあり、保護者の就労支援として放課後や長期休暇等で、保育が十分に保証されないお子さんに、家庭に替わっての保育を行っています。



「児童クラブピーター」



園庭での様子

夏の野外活動、冬のクリスマス会、春のお別れ会、歓迎遠足等の活動を通し、思いやりの心や協調性、リーダーシップなど一人ひとりの豊かな育ちを支援しています。

「日中一時支援事業所マルコ」

主に大分県立中津支援学校の小学部から高等部の生徒、学生が利用しています。たくさんの体験を通し、豊かな学びとなるように、蛸瀬周辺の散歩や公園、スーパーや駅等に出掛けるなど、地域、社会との関わりづくりをしています。



室内での様子

場所に慣れてもらうことから始め、個性を理解し、コミュニケーションや信頼関係づくりのために、ゆっくりとした関わりを大切にしています。



「日中一時支援事業所マルコ」

共生事業

福祉の里センター サマリア館

共生事業 - 福祉の里センター -

共生事業

「いずみの園かきげサポートセンター」では、2015年4月から「福祉の里センター サマリア館」の事業開始を予定しています。中津の下町である蛸瀬地区に、中津市政の中心である「福祉の里づくり」の考えを受けて、人が集える場所として、地域社会へ貢献することが目標です。



「福祉の里センター サマリア館」イメージ図

事業コンセプト

地域においては、「一緒に話したり、作ったりしたい。自然に手助けしてくれる人がおり、子どもたちが安心して遊べる場所で、他の人とも交流したい」などの声が聞かれます。そうした背景の中で「あそこに行けば楽しい何かがある」、「昔あったお隣さんづきあいができる気楽な場所」を住民は求めており、高齢者、障がいのある児・者、子ども、子育て中の親など、広く住民が集える共生型としての運営をコンセプトとしています。

事業内容概要

「かきげサポートセンター」における既存の事業に加え、①高齢者事業では介護予防拠点や訪問看護ステーション、②障がい事業では児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、③子ども子育て分野では子育て支援拠点事業などの実施を行います。加えて、地域住民の集える空間として、多目的ホール、会議室、文化伝承スペースを作り、安心して暮らせる街として、広く多世代の方が利用できる施設です。

かきげサポートセンターについて

2010年7月より、中津市第1号の小規模多機能型居宅介護事業所とグループホーム2ユニットを開設しました。

隣接する「デイサービスかきげ」（旧グレース保育園・1974年開設）を含めると約40年前より蛸瀬の地域と共に歩んできた歴史があります。



かきげグループホーム職員



デイサービスかきげ職員



デイサービス北郷川職員



マルコ職員



寄り合いセンターいずみ職員

これまで地域で培った関係をさらに発展させるため、蛸瀬地区の自治会に加わり、季節の祭りごとや清掃活動、自主防災組織への協力等積極的に地域との交流を行っています。

利用者のその人らしい豊かな生活環境を整えるだけでなく、将来的には地域の一員となり、地域の福祉拠点となるように努めています。

法人保育所紹介① めぐみ保育園

所在地：大分県大分市花高松3丁目2-12
 定員：120名（2014年4月より）
 職員数：28名



運動会

毎年、保育園横の公園で行っています。地域の人たちも多数参加していただいています。



礼拝

毎週金曜日に全園児で礼拝を守っています。



大分東教会

大分東教会です。創立50周年を迎え、新会堂が2014年2月に完成しました。



花の日

花の日に普段からお世話になっている園医さんやお巡りさんのところへ行って、感謝の気持ちを込めて花を差し上げています。



園舎

大分市内で唯一のキリスト教主義保育園として頑張っています。



芋掘り

豊後大野市の広い芋畑でお芋を掘らせてもらっています。



クリスマス発表会

クリスマス発表会で、イエス様のお誕生をみんなで祝いしています。

めぐみ保育園は、事業団の第1号の施設である。教区は新日鉄の大分市への進出にあわせ、働く人々のために開拓伝道を展開し、1964年3月、鶴崎伝道所を開設した。数年後、移転し、大分東教会となったが、1968年4月、教会員の奉仕による、礼拝堂や教会学校の教室を利用した小規模保育園を始めた。園児も増え、社会福祉法人の認可を受けたが、理事会は、大分地区の牧師や宣教師、教会の信徒によって構成されていた。その後、公的補助金を受け立派な園舎に改築されたが、開拓伝道の厳しい歩みの中での保育園の働きは、牧師と信徒の献身的な奉仕に支えられ、地域における宣教に大きな役割を果たしてきたがその精神は今も受け継がれている。

＜前理事長多田一三先生 日本基督教社会福祉学会誌【基督教社会福祉学研究】第29号（1996年）より転載（抜粋）＞

法人保育所紹介② グレース保育園

所在地：大分県中津市大字大塚199

定員：120名

職員数：27名



5歳児クラスのスندグラス



平和の鐘



園庭

広々とした「ほーる」のステージには虹と鳩をデザインしたスندグラスがあります。

子どもたちは、様々な楽器に触れ、音あそび（ミュージックセラピー）を体験しています。



音あそび



アンネのバラ

色や形が日に日に変化していき、つぼみは深紅、開花するにつれ橙、黄、黄金色になっていきます。

平和と生命のシンボルとして地域の方々も咲く時を楽しみにしています。



図書こーなー



園舎全景

キリスト教の精神に基づき「地域に仕える愛の業」として1974年に創立しました。子育て支援センター「ほーる」や「図書こーなー」などがあり、笑顔あふれる交わりの輪が広がっています。「生命」と「平和」をテーマにした保育園です。

グレース保育園は中津教会によって開設された。創立100周年を迎えた中津教会は、米国メソジスト教会のキャラハン宣教師によって宣教活動が開始された。封建的で因習のはびこる閉鎖的な地域への伝道の手立てとして、夫妻は宣教師館を開放し、料理教室や幼稚園を開いたと本部に報告している。それ以来、教会が幼稚園を開設するというのが長年の夢となった。しかし、今から20年前の我国の高度経済成長は、女性の就労を促し、全国的に保育所の整備がすすめられた。

様々の困難はあったが、中津教会は地域のニーズに応え、市内北部の新興住宅地にグレース保育園（定員90名）を新築開設した。実現に至らせたのは、牧師と教会員全員が、この施設は教会と共に、キリスト教保育を通して宣教の使命を果たすことができるという確信によるものであった。さらに、障害児保育を基本方針とし、全国でも障害児の統合保育に本格的に取り組んでいる保育園が少なかった当時、肢体不自由児施設「別府整肢園」と連携し、心身障害児療育相談センターを開設し、県下の障害児保育において先駆的な働きをすすめ、今日に至っている。創設以来、保育園の殆ど全ての職員は中津教会の礼拝に出席し、教会の働きを支えている。

＜前理事長多田一三先生 日本基督教社会福祉学会誌【基督教社会福祉学研究】第29号（1996年）より転載（抜粋）＞

法人保育所紹介③ 犀川のぞみ保育園

所在地：福岡県京都郡みやこ町犀川本庄745
 定員：40名
 職員数：14名（児童クラブ含む）



野原にて

豊かな自然の中にある保育園なので、しばしば園外保育に出かけます。たんぼや野原が私達の園庭です。



児童クラブ

2階にあるホールでは、毎日児童クラブ（学童保育）の活動が行われています。



運動会

運動会はすぐ目の前の犀川体育館で行います。お天気に左右されずに、広い体育館を思い切り駆け回ります。



クリスマス会

毎年クリスマスには、ホールでクリスマス礼拝を行い、聖誕劇や各クラスの演し物でイエス様の誕生をお祝いします。



園舎全景

正面玄関右側が日本基督教団犀川教会、左側が犀川のぞみ保育園になっています。



園庭

少し細長い園庭ですが、鉄棒や砂場、ジャングルジムなどの遊具があります。

犀川のぞみ保育園は、福岡県北部の過疎農山村に、1959年、開拓伝道教会として設立された犀川教会の附帯施設愛児園が、事業団加盟と共に発展的に認可施設としての陣容を整備して設立されたもので、恵まれた自然環境の中でユニークなキリスト教保育を創造的に展開している。卒園児は802名、少子化傾向の激しい農村にあっても常に定員を満ち、地域社会の活性化に取り組み、教会の宣教の一翼を担っている。

＜前理事長多田一三先生 日本基督教社会福祉学会誌【基督教社会福祉学研究】第29号（1996年）より転載（抜粋）＞

関連教会紹介

日本基督教団 中津教会

所在地：大分県中津市殿町1387番地

牧 師：廣安慎太郎

創 立：1897年5月5日 キャラハン宣教師の伝道から、
宣教活動を始めた教会です。

礼拝時間：毎週日曜日朝10時20分より
(こどもの教会は9時10分より)

グレース保育園を開設し、いずみの園と深い関わりを持つキリスト教の教会です。両福祉施設の職員の皆様と協力しながら、神様の愛を伝える働きを担っています。

星のように、迷っている人に道を示し、悩んでいる人を勇気づけ、苦しんでいる人を慰める教会となりたくて願っています。



中津教会

大人から子供まで幅広い年代の方と共に、礼拝を捧げています。講演会、音楽会、いずみの園、グレース保育園での奉仕、バザー他いろいろな活動を通して、地域に開かれた教会でありたいと願っています。



礼拝堂

キリスト教関係行事 (いずみの園内)

利用者礼拝

キリスト教の礼拝を様々な場所で(週3回の大人向けと月1回の子ども向け)行っています。讃美歌を歌い聖書の言葉に耳を傾けます。



利用者礼拝



職員礼拝

職員礼拝

毎週水曜日の午後1時半から約15分の間、職員礼拝が行われます。メッセージはチャプレンの時もありますが、近隣在住の法人理事でもある牧師先生方で、それぞれ個性豊かなお話しがまた魅力です。

チャプレンとは

もともと「チャペルの牧師」という意味で、学校や病院・施設、古くは軍隊等教会以外のごと
て働く牧師を指しました。心と魂の配慮を行うことがその使命で、今日風に言えばスピリチュアルカウンセラーといえます。



堤 健生
チャプレン

クリスマス祝会

キリスト教関連の行事は、毎週行われる礼拝の他にもイースターなどありますが、一番大きな行事はクリスマスです。当園では各事業所でクリスマス祝会・愛餐会が盛大に行われます。

職員による趣向を凝らした出し物や美味しい料理で、クリスマスのお祝いを行います。



特養クリスマス会



クリスマスケーキ

職員の福利厚生

いずみ会・WLB・マリアガーデン<いずみの園>

「いずみの園」では、魅力ある職場で充実した生活が送れるようにという願いから、福利厚生活動に力を入れています。主な活動としては、福利厚生組織である「いずみ会」の活動や、外部団体の福利厚生サービスの利用、契約宿泊施設の割引利用、リフレッシュ休暇の促進などがあります。また、育児・介護休業制度に加え、事業所内保育施設「マリアガーデン」を運営することで、小さなお子さんのいる職員にも、安心して働ける職場です。

WLB (ワーク・ライフ・バランス)

WLB(ワーク・ライフ・バランス)は、「仕事」と「仕事以外の時間(私生活の時間)」の調和がとれるよう、働きやすい職場づくりにより職員の能力を最大限に引き出し、さらに成長することを目的とし、当園では以下のことに取り組んでいます。

- ・育児休業
- ・介護休業
- ・短時間勤務制度
- ・事業所内保育施設
- ・再雇用制度



働きやすい職場づくり(ホームヘルパーの研修)



余暇を利用した旅行(いずみ会)

いずみ会

当園職員親睦会で、職員約350名で構成され、会員の中から毎年9名の幹事が互選されて1年任期で運営しています。



(高崎山)

「いずみ会」の運営に充てられる費用は、職員の会費と「いずみの園」の助成金です。



「シャローム」利用者のいずみ会親睦旅行(うみたまご)

新人歓迎会(4月)、忘年会(12月)などの行事の開催の他、慶弔費の支給や親睦旅行の費用助成なども行っています。

マリアガーデン



「マリアガーデン」室内の様子

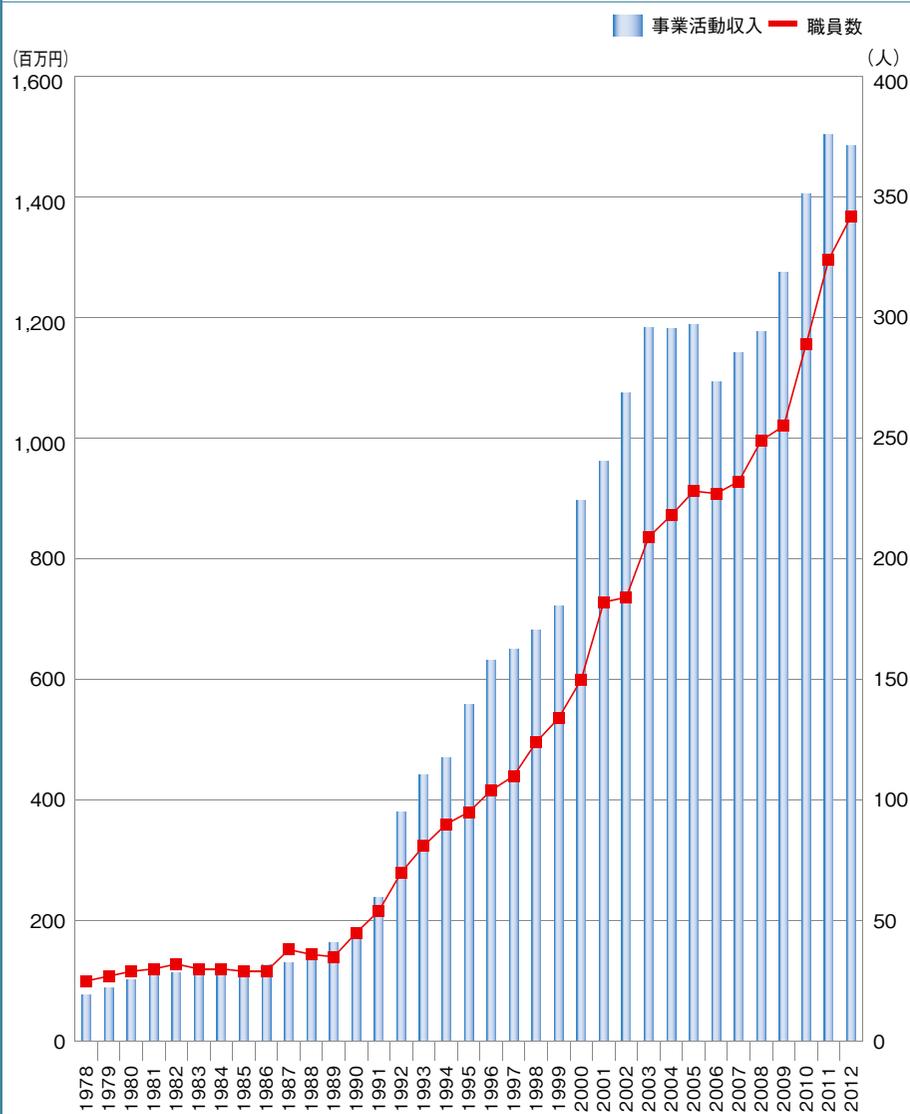
当園職員が利用できる事業所内保育施設です。今日までに約20名の職員が利用し、常時10~15名の園児が在籍中です。

職員からは、「子どもの顔の見える距離で安心して預けられる」と喜ばれています。

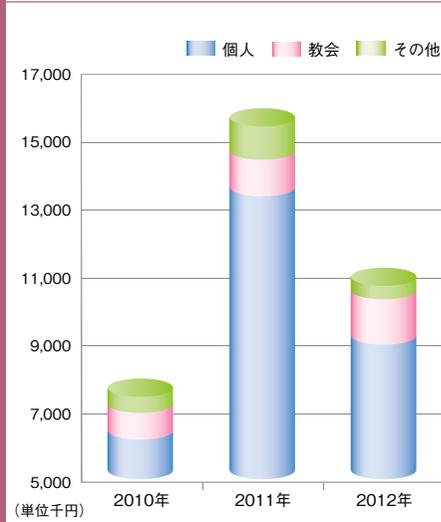
育児休暇後、円滑な職場復帰には必要不可欠な宅見施設です。

各種データ

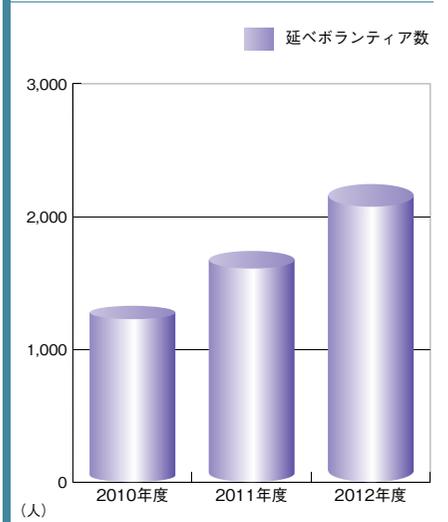
いずみの園事業活動収入・職員数推移



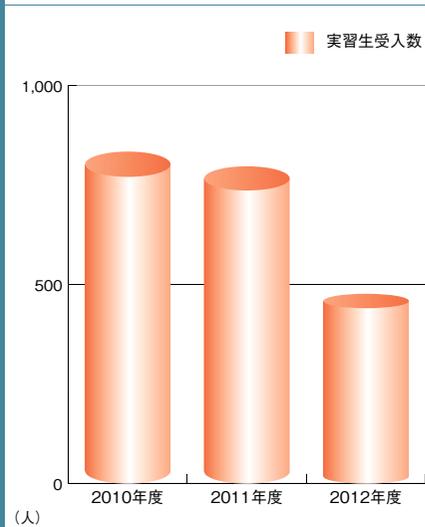
法人献金額推移



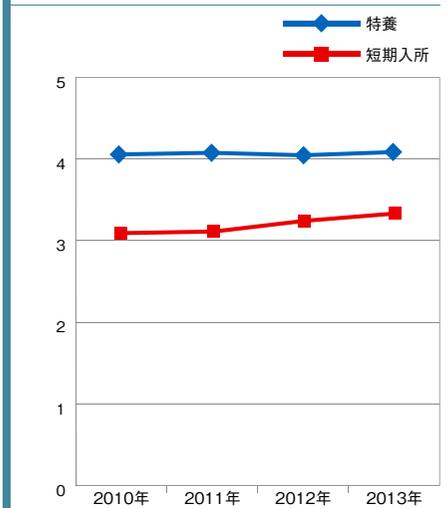
いずみの園延べボランティア数推移



いずみの園実習生受入数推移



いずみの園平均介護度推移



10年後を目指して

かきぜサポートセンター

センター長 豊田 毅士



いずみの園へ就職してから16年が経過しました。その間に介護保険制度の施行、いずみの園のユニットケア開始、「デイサービスセンターかきぜ・北堀川」や「児童クラブピーター」「日中一時支援事業所マルコ」の開所に携わってきました。施設ケアから在宅ケアへの部署異動による制度やニーズの違いに戸惑いながら、いわゆる「社会的弱者」と言われる高齢者や障がい者、子どもへの支援を行ってきました。地域において事業を行い、様々な問題を抱える利用者への援助や近隣住民、各種団体の方々との交流を通して、つながりを経験することができました。その中で、職員自身が信頼される存在になることが一番大事だと感じました。

10年後もいずみの園は多岐にわたり事業展開を図り、地域福祉発展に取り組んでいることでしょうか、各個人が地域に貢献していくという姿勢を自覚し、私自身も信頼される「人」となれるように自己研鑽し、中津市の福祉の発展に努めてゆきたいと思います。

障がいサービス事業部

就労支援事業課 課長 栗原 洋一



2000年に入職。早や13年が過ぎようとしています。10年後は、46歳24年目の自分を想像して意見を述べさせていただきます。

高齢者分野で12年。障がい者分野で1年ですから、障がい事業に係ることが多くなると予測します。障がい者への人権侵害事件が後を絶たないなかで、虐待の防止や権利擁護の観点からも、障がい施設が地域から期待される役割はますます重要となります。障がいのある方が、「地域の中で生活できる仕組みづくり」に協力したいです。

働く環境づくりから始まり、安心して暮らせる場所の提供と必要な相談支援。知的障がいがあっても、収入を得て、自分の力で生活できるまでの住環境と、一般就労して生計が成り立つ生活環境。結婚、出産、子育て等の生活の見守りができるシステム作りが必要と考えます。地域で生活していく中で、日々変化する多様なニーズに対応するためにも、幅広い関係機関との連携ができることを願います。

特養事業部

介護課 主任 重成 智子



「ありがとうございました。父はここで暮らせて良かったです。」これはいずみの園で最期の時を迎えられたご利用者のご家族からいただいた言葉です。

この方は肺がんを患われ、最期はいずみの園で迎えたこととで過ごされていました。ご家族との時間を大切にいただき、調子の良い日には散歩を楽しまれ、大好きなケーキやお寿司を食べ、入浴もいつでも入れるよう看護と介護が協力し、見守らせていただきました。そして、園の玄関から最期の旅立ちを見送らせていただきました。

この経験によって、特養は終の棲家であると感じるようになりました。現在はいずみの園で最期を迎えたいと望まれる方が多くなっています。ターミナルケアを必要とされる方一人ひとりにその人らしさを感じていただけるように努力していきます。「ここで暮らせて良かった」の声の一つでも多く聴くことができるように、知識・技術の向上に努め、後輩の育成に励み、まごころをこめたケアを行っていきます。

編集作業を終えて

この『魅力発信書』発行に当たり、2013年7月に編集委員会を結成し、毎月1回打ち合わせを行い、掲載する項目の検討をしました。その中で魅力のあるものを自分たちで選んでみようと、「職員が選ぶハード面／ベスト10」、「ソフト面／ベスト10」を企画しました。しかし編集委員の中には行ったことのない事業所がある職員もいたため、全ての事業所を見学する「魅力探検ツアー」を企画し、実際に見学を行いベスト10を選びました。このツアーが好評で、P10のトピックスにある「見学ツアー」へとつながり、多くの職員が「いずみの園」を再確認する機会となりました。



◀編集委員

写真左より田中(洋)、今長主任、末延課長、高倉主任、田中主任

2014年4月

経営企画課長 末延 政 光

編集後記

数年前、直木賞を受賞した作家 井上荒野さんの「切羽へ」の中に、長崎の離島を舞台にして、都会から来た主人公(女性)が住み続けたところとする島で、「ここにはすべてがある」とつぶやく場面がありました。

私は「荒野」という作者の名前(聖書からの引用とか)とそのセリフがずっと記憶に残っています。なぜなら、当法人が目指すものがこの言葉にあるだろうと考えるからです。

そうした想いもあって、当法人に「ここにはすべてがある」と思えるところ、言い換えれば「魅力」をどう高め、「内部留保」していけるのかをこの機会に法人の魅力をお知らせする冊子を発刊することにしたのです。

1年ずつ歴史を重ねてきた当法人の姿を、少しでも知っていただければ幸いです。

2014年4月

法人本部事務局長 有馬 健



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

本部 〒871-0163 大分県中津市大字永添2744番地

電話：0979-23-1616 (代)

FAX：0979-23-1783

ホームページ：<http://www.izuminosono.jp/>

めぐみ保育園

TEL：097-558-9873

FAX：097-558-9473

H P：<http://www.me-gu-mi.jp/>

グレース保育園

TEL：0979-23-2668

FAX：0979-23-2683

H P：<http://www.grace-hoikuen.net/>

犀川のぞみ保育園

TEL：0930-42-1212

FAX：0930-42-3258

かきざサポートセンター

TEL：0979-26-0039 FAX：0979-26-0081

中央サポートセンター

TEL：0979-64-9058 FAX：0979-24-1777

障害者生活支援センターエマオ

TEL：0979-26-1231 FAX：0979-26-1239

ワークセンターシャローム

TEL：0979-64-9059 FAX：0979-24-2525

シニアレジデンスいすみの森

TEL：0979-33-7070 FAX：0979-25-0083

